可茂農林事務所の普及活動状況 令和6年5月25日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■担い手リーダー 新たに青年農業士1名と女性農業経営アドバイザー2名を認定

県では、優れた農業経営の実践や地域振興に貢献する農業者を、岐阜県 い手リーダー感謝状贈呈式・認定証文がは 指導農業士や岐阜県青年農業士として認定、農業経営に自ら参画し地域の活 性化に貢献する女性農業者を岐阜県女性農業経営アドバイザーに認定し、担 い手リーダーとして県内の各地域で次世代の担い手育成などに活躍いただ いている。令和6年度は県全体で、指導農業士14名、青年農業士16名、女性 農業経営アドバイザー9名を新たに認定した。

可茂地域で新たに認定を受けたのは、青年農業士に佐伯悠太さん(白川 町)、女性農業経営アドバイザーに河野美文さん(富加町)と服部充気さん



【認定を受けた農業者の皆さん】

(白川町)で、5月24日に岐阜県庁において開催された認定証交付式で、足立葉子農政部長から認定証の交 付を受けた。可茂地域では今年、指導農業士10名、青年農業士3名、女性農業経営アドバイザー6名の担い手 リーダーに活躍いただくこととなった。

(地域支援第二係)

■関係機関連携 営農連絡会議を開催

5月1日に可児地域、9日に白川地域で、市町村、JAめぐみの、岐阜県農業共済中濃支所、可茂農林

事務所が参集して営農連絡会議を開催した。また、美 濃加茂地域では4月19日に、JAめぐみのと農林事 務所による打合せ会議を開催した。

年度当初に当たり、各機関の今年度の主要事業等の 情報共有と連携を深めることを目的とし、農林事務所 からは普及指導計画の活動内容について説明し協力を 依頼した。また、新規就農者へのサポートチーム支援 体制について、対象者および各機関の担当者の確認を 行い、伴走支援の充実を関係機関で共有した。



【白川地域営農連絡会議】

今後は、関係機関と連携し、普及指導計画に基づいて地域や産地の課題解決に向けて活動していく。 (地域支援第二係)

| 安心で身近な「ぎふの食」づくり

■にんじん 振興会の設立及び冬にんじん栽培暦検討会

坂祝町では、新規就農者の経営品目の一つとしてにんじん栽培を志向する生産者が増えていることから、 露地野菜生産者(認定農業者)が中心となり、冬にんじんの生産と共同選果、共同出荷を目的とした、坂 祝町人参振興会(会長:村田展章氏、会員4名)が令和5年12月に設立された。

今年度振興会として初めての生産と出荷を目指し、5月16日に生産者、全農ぎふ、「A担当者、農林事 務所が集まり栽培暦検討会が開催された。農林事務所からは、冬にんじんの栽培暦(案)を示し、標準栽 培管理、施肥、防除資材について説明し、全農ぎふ、JAからは出荷規格や集荷方法について説明が行わ れた。生産者は年明け後からの本格出荷を目指し、時期に適応する品種を選定、栽培していく。 今後、農林事務所ではにんじんの高品質・安定生産に向けた栽培支援を行う。

(地域支援第一係)

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■美濃加茂市堂上蜂屋柿振興会 ラジコン草刈機実演会の開催

美濃加茂市堂上蜂屋柿振興会(会員 56 名)は5月9日、美濃加茂市 蜂屋町の柿園でラジコン草刈機実演会を開催した。実演会は摘蕾講習会 と同時開催され、会員約30名と関係者約10名が参加した。

草刈作業は年間3~5回程度あり、病害虫防除作業と並んで会員にとって大きな負担となっている。ラジコン草刈機の活用による労力軽減・省力化が期待されるため、岐阜県のスマート農機貸出事業を活用しラジコン草刈機2台を借り上げ、今回の実演会開催に至った。農林事務所か



【ラジコン草刈機実演の様子】

らは岐阜県のスマート農機貸出事業について紹介し、使用したラジコン草刈機2台の性能等の説明を 行った。

参加者は、初めて見るラジコン草刈機による作業を興味深く観察していた。関心のある生産者から「自律式のラジコン草刈機も見てみたい」と要望もあり、再度スマート農機貸出事業を活用するなど 今後も支援を継続する。

(地域第一支援係)

■夏秋トマト ぎふ清流 GAP の模擬審査を実施

美濃白川夏秋トマト部会では、持続可能な農業経営を目指した取り組みの一つとして、ぎふ清流 GAP の取り組みを始めた。農林事務所では、今年度申請を目指している2経営体に対し、5月上旬に模擬審査を実施、評価表を作成してそれぞれに対し結果の説明を行った。あわせて、個別巡回時にも改善に必要な部分とその理由やリスクの説明を行うとともに、各種記録様式、掲示様式例の提供や整理整頓の方法など改善対策の助言を行った。各経営体とも GAP の取り組みを始めたばかりということもあり、改善すべき項目は多いが、評価表をもとに改善に取り組む予定である。

農林事務所では、今後もぎふ清流 GAP の取り組みを継続支援していく。

(園芸産地支援係)